

9日

中学生が厚真町を英語でPR

厚真中学校（渋川賢一校長）と厚南中学校（細野輝彦校長）で9日（厚南中）と10日（厚真中）、中学2・3年生を対象とした、厚真町を外国人に英語でPRする活動（APR）が行われました。この授業は昨年度新設されたコミュニケーション科の授業として実施。近隣町等からALTが10名程集まりました。

生徒たちは、各自で調べた厚真町の魅力について写真等を用いながら英語でALTにPRを行い、特産品のハスカップや町内にあるスイーツ店の話題で盛り上がっていました。

また、同日には1年生を対象に、外国人に英語で自己紹介やインタビューする授業も行われました。



英語で特産品を紹介

28日

今年も熱戦！自治会ナイターパークゴルフ大会

新町町民広場パークゴルフ場で「自治会対抗ナイターパークゴルフ大会（夏季）」が行われ、8自治会から12チーム55人が出場し、日頃の練習の成果を発揮するとともに交流を深めました。

【団体】優勝／本郷B、準優勝／南町A、3位／南町B、4位／新町A、5位／上厚真自治会

【個人】男性1位／紺屋勝美（本郷B）、2位／山家文雄（本郷B）、3位／畑嶋征二（本郷団地A）女性1位／都築静子（南町B）、2位／長橋恵美子（本郷団地B）、3位／小牧純子（上厚真）



ボールの行き先を見つめる参加者

30日

高橋はるみ知事にハスカップをPR

厚真町ハスカップブランド化推進協議会は、厚真町産ハスカップを道内へ発信するイベント「ハスカップフェア2016」の一環として高橋はるみ知事を表敬訪問しました。同協議会から下司義之会長と山口善紀副会長が訪問し、厚真産ハスカップとハスカップジャムなどの加工品をプレゼント。

高橋はるみ知事は「ハスカップは北海道を代表する地域資源の一つであり、応援していきたい」と話していました。



下司会長(中)からハスカップを受け取る高橋知事(右)

2日

街中を花いっぱいにし市街地環境整備

市街地を花いっぱいにする事でイメージアップを図る「厚真市街地環境整備事業」が開催され、花フレンズ、西町・南町自治会、町商工会、厚幌ダム作業所職員、各事業所員、町民ボランティア、町職員など約60人が、市街地沿道への花の植栽作業を行いました。

今年度の植栽区画は81区画で、ペチュニアなどが植栽され、道行く車や人を花でお出迎えしています。

また、景観保持のために月2回草取り作業を行っていますので、ご協力をお願いします。

【日 時】 毎月第2・第4木曜日 午前9時～

【集合場所】 役場前

【持ち物】 軍手



花を植える厚幌ダム作業所職員

4日

町120年を記念した植樹祭を開催

桜丘の環境保全林で、町内各団体の関係者や一般参加の町民など約120人が町120年を記念した「町民植樹祭」に参加し植樹を行いました。ニトリ北海道応援基金の支援を受け、約0.8ヘクタールに蝦夷山桜や千島桜、八重桜などの苗木約800本を植樹。

参加者は「桜の名所桜丘」の復活を願い植えていました。



重い桜の苗木の植樹にチャレンジ

6日

地域おこし協力隊・農業支援員として片倉さん(43歳)と角地さん(34歳)に委嘱状を交付

地域おこし協力隊・農業支援員の委嘱状交付式が行われ、新しく支援員となった片倉拓紀さん(43歳)と角地渉さん(34歳)に宮坂町長が委嘱状を手渡しました。

片倉さんは網走市出身で帯広市育ち。神奈川県で日本郵便に勤務していましたが、北海道に戻って新しいことにチャレンジしたいと思い、支援員に応募したとのこと。片倉さんは「祖母が苫小牧市出身で、幼少の頃からハスカップが好きだったので、ハスカップの栽培にチャレンジしたいです」と抱負を語っていました。

一方、角地さんは東京都品川区出身。都内で住宅リフォーム業を営んでいましたが、奥様の悠さん(29歳)が北広島市出身で、結婚前から北海道にいつか戻って来たいと考えてたという。角地さんは「北海道に住むなら農業がしたいと思っていました。また、自然豊かな環境で子育てがしたいと考えていたので応募しました」と話していました。



角地さん(右)とその家族(中)と片倉さん(左)